



SAICM 化学産業界の対応

SAICMアジア地域会合に向けた
国内フォーラム

2007年3月16日

(社)日本化学工業協会
小倉 正敏



SAICMに対するICCA*/日化協の対応

(*国際化学工業協会協議会)



[SAICMに対する認識]

歓迎 SAICMは 02年世界サミットでの目標実現へのロードマップ

[ICCAの対応]

レスポンシブル・ケア(RC)活動をベースに対応

RC活動

世界サミットやドバイ宣言で高い評価

SAICMの方向性とも整合

RC活動をグローバルに強化、化学物質管理の充実を目指し

「RC世界憲章」を制定 SAICMをサポート

発展途上国へのCapacity Building <能力向上> 支援を強化・発展

[日化協の対応]

ICCAの活動を支持・協力

国内でのRC活動の推進

日本政府との連携の下、

新たなRC活動を推進、アジア諸国への<能力向上>を更に強化・発展

レスポンシブル・ケアとは



- ・化学品の**開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄**に至る全ライフサイクルにおいて、
- ・企業が**自主的に**環境・安全・健康を確保し、
- ・その**成果を公表し、社会との対話・コミュニケーション**を行う取組み



「RC精神」とは、環境・安全・健康・品質について、**企業自らの責任**で取組み、**広く社会に対して責任を果たすこと**の約束である。

レスポンシブル・ケア(RC)の歩み

	[活動]	[外部の評価]
1985年	・カナダで誕生	
1989年	・ICCA設立 グローバル化の始まり	
1992年		・地球サミット RCの実施を推奨
1995年	・日化協 RC活動開始	
2002年		・世界サミット 模範的自主活動として高く評価
2004年	・ICCA RC世界憲章を制定	
2005年	・日化協 RC世界憲章を承認	
2006年	・RC世界憲章を公式発表	・ドバイ宣言 RC活動を認知



日化協のRC活動 10年の歩み



- | | |
|--|---|
| <p>1995年 JRCC設立
RC改善活動開始
会員交流会開始</p> <p>1996年 地域対話開始
RC報告書発行開始</p> <p>1997年 RC報告書報告会</p> <p>1998年 ウェブサイト開設
消費者対話開始</p> | <p>2001年 アジア諸国へRC活動
普及支援開始
学生対話開始</p> <p>2002年 RC検証活動開始</p> <p>2003年 AOTS(海外技術者
研修)事業協力開始</p> <p>2004年 アジア諸国へGHS*
活動普及支援開始</p> <p>2005年 設立10周年
*GHS:化学品の表示に関する世界統一
システム</p> |
|--|---|

継続的改善活動

コミュニケーション活動

検証活動

国際活動



化学産業界の取組事例

- 改善活動 : 温暖化対策、VOC削減 他
- コミュニケーション : 地域対話・市民対話
- 安全性データ収集
 - OECD / ICCA HPV Initiative 1998年 ~
 - ジャパン・チャレンジ・プログラム 2005年 ~
- リスク評価の推進 : 人材育成
- LRI(化学物質の環境影響および安全性に関する長期自主研究)
- サプライチェーン : ユーザー業界との連携
- RC・GHSの普及
 - 発展途上国への<能力向上>支援



改善活動事例：温暖化対策



日本における企業と社会との対話

市民・住民との相互理解を深めるための対話活動



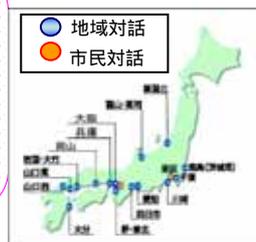
地域対話 ・各地域の複数の企業と住民との対話集会
・全国15地区にて2年に1回開催

対話集会内容・アンケートによる住民要望の把握
・工場見学と企業活動説明
・パネル討論による議論の深化
・自由な質疑応答



市民対話 ・東京・大阪における企業と消費者団体との直接対話集会、毎年開催

対話集会内容・消費者団体、NPO、NGO、学生団体
・RC活動の紹介
・化学物質に関する勉強会・講習会
・自由な質疑応答





ケミカルリスク研究会

化学物質のリスクを科学的に評価し管理することのできる企業体制の確立と人材育成のために

2002年より開始し、5年で42回を重ねる
会員制：約50社(日化協会員外も含む)、150人

実施内容

化学物質のリスク = 影響(毒性・生態毒性)の強さ × 曝露量

・影響の強さ(ハザード)を評価する
毒性試験の実際とその問題点
生態毒性試験の実際とその問題点
構造 - 活性相関による予測
化学物質の構造から毒性、生態毒性の強さを予測する。

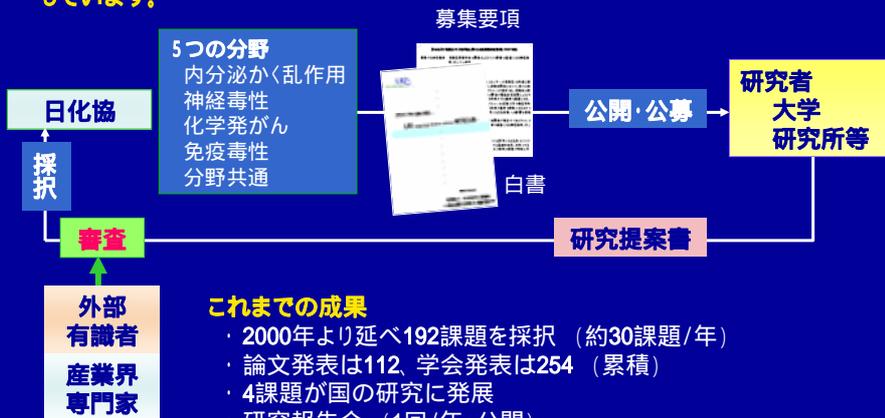
・曝露量を推計する
曝露推定モデルの理論と構築
工場周辺の大気中濃度推計
河川中の濃度推計
曝露推計モデルの演習
パソコンを用いた演習

・リスク評価を行う：演習、既存のリスク評価書を読み解く

ホームページ <http://www.chemrisk.org/>

(社)日本化学工業協会長期自主研究(LRI)

日化協は人の健康や環境に及ぼす化学物質の影響に関する基礎的な研究を支援しています。



ホームページ <http://www.j-lri.org/>

LRIはICCA加盟国のうち日米欧の3つの工業協会が協力してとり進めています。



化学産業界とサプライチェーン間の 情報共有化への対応

[自動車業界]

GASG (Global Automobile Stakeholder Group)

- ・日米欧3極の自動車、部品、化学/プラスチック業界連携
- ・自動車業界の管理物質の決定と管理
- ・日本の自動車、部品、化学企業(日化協/プラ処理協)参加

[電気・電子業界]

・日化協含有情報提供システムの提供 **MSDS plus**

- ・国際的な仕組み構築の支援(物質分析法)

[JAMP (Japan Article Management Promotion consortium)]

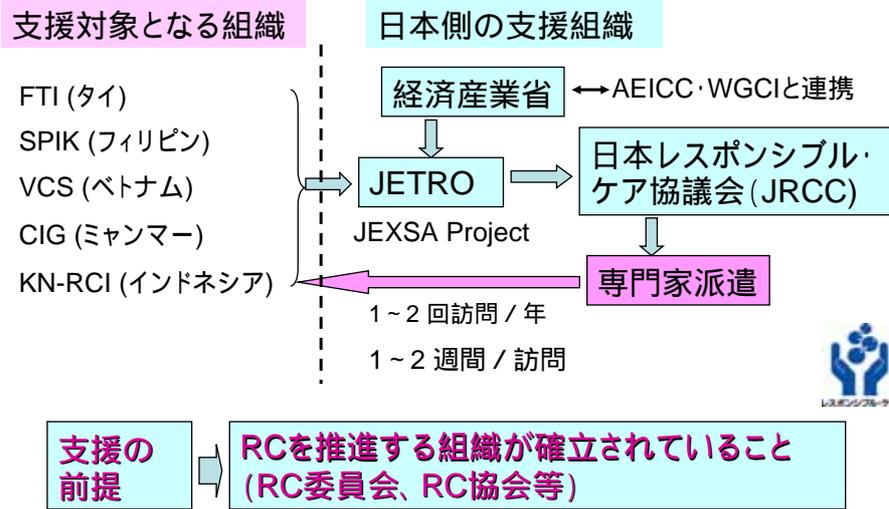
- ・サプライチェーンでの情報共有化 支援

国際RC活動

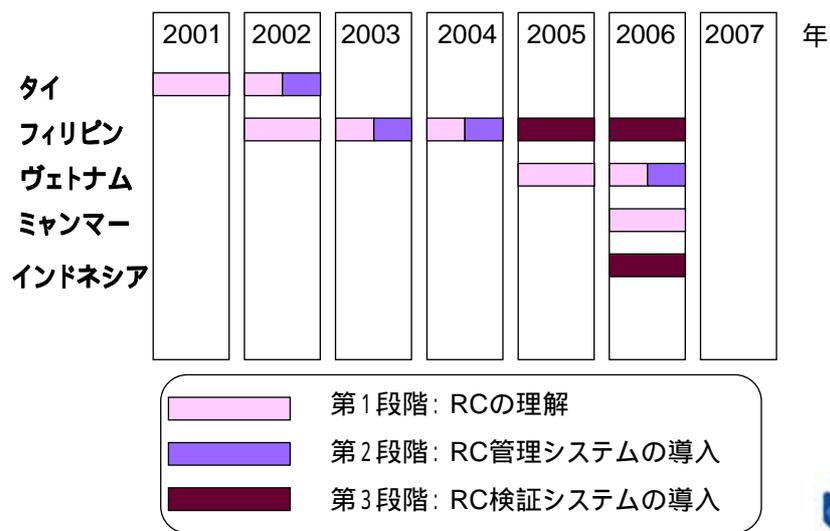
- 官民連携によるアジア諸国への<能力向上>支援推進
 - ・経済産業省の指導の下、アジア諸国へRC活動及びGHS活動の普及支援を積極推進
 - タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア、インドネシアなど
 - ・AOTS(海外技術者研修協会)事業支援推進
 - 海外研修生受入れ
- 国際協調
 - ・ICCA・RCリーダーシップグループ(52ヶ国加盟)へ積極参加、協力



ASEAN諸国へのRC支援の仕組み



RCの導入マップ



フィリピン 検証者育成 OJT



ベトナムでのセミナー風景



ベトナム 企業訪問



JETRO /AOTS* のGHSワークショップ

	FY	2003	2004	2005	2006	2007
ワークショップ	指導者養成コース (14日)			● ● ● ●	● ■	■
	上級コース ・混合物の分類、表示 (5日)			● ●	■	■
	中級コース ・化学品の分類、表示 (2日)		●	● ■	■	
	初級コース * GHS 紹介 (1日)	●	●	■		
セミナー * GHSとは何か (1日)	●					

● フィリピン,マレーシア,インドネシア,タイ,ベトナム

● シンガポール

■ カンボジア,ミャンマー,ラオス

*AOTS(海外技術者研修)

上級コース カリキュラム 例

日	午前 1	午前 2	午後 1	午後 2
1	Manual			
	物理化学危険性	健康有害性		環境有害性
2	情報収集	GHS 分類 (2成分モデル混合物)	演習 1;(グループ作業) URL による情報収集 単一物質のGHS 分類	
3	演習 1 発表 (ディスカッション)	GHS 分類 ペイント製品	演習 2 (グループ作業) 2成分系混合物のGHS 分類	
4	演習 2 発表 (ディスカッション)	GHS ラベル	演習 3 (グループ作業) 演習 2の混合物のラベル作成	
5	演習 3 発表 (ディスカッション)	演習 3 (ディスカッション)	補足説明、質問、締め	

講義

演習



ご清聴、有難うございました

